

この町に来てから山に魅せられた

飯南町森林セラピーガイド

荻野 英明さん

荻野さんは産業体験者として京都府から飯南町にご夫婦で定住され、現在は井戸谷に住まわれています。セラピーロード周辺施設の管理とともに森林セラピーガイドをされ、ハーブやキノコ、山菜などに詳しい森の博士です。

セラピストへの動機は

山への関心はあまり無かったのですが、第1期セラピスト募集時に、役場から勧誘の電話があつて「森林セラピーとは何？」と尋ねたら、「お客様に山のことを簡単にお話するだけ」と説明を受けました。2日後、「ご登録ありがとうございます」という、突然の通知がありました。



「ただ、山が好きだったんだと思います。それから山野草の名前など、次々覚えていききました。セラピストの出勤回数も一番多くなっています。」

森林セラピーの楽しさ

山は、いつも異なる表情を見せるので、私自身も楽しいと感じます。

森林セラピーは手段が明確に無く、参加者にリラクゼーションとして楽しんで帰ってもらいたいというところが主です。これがないという希望があれば予定変更し、やりたいことができる自由があります。

参加者が山モードに変わるには少し時間が必要ですが、徐々に

に積極的な要望を述べられ、山に興味を持っていただけます。自然の良さを見つけてもらう、見つけるお手伝いをするのが森林セラピーの案内の仕方だと思います。

森林セラピーの今後は

私は、ふるさとの森の管理業務委託を受けて常時ここにいるので、セラピスト希望者には、共に歩いてアドバイスします。どんどん若い仲間を増やしていきたいと思っています。

本町の小学校と高校は学習メニューとしてセラピーの体験があります。町民の方にも体験してもらいたいと思います。家の裏山とは、また違った魅力がありますよ。



3月中旬に役場で開催された飯南町森林セラピー養成講座で講師を務めた荻野さん。「森を識ろう」と題した講座で、ガイドが利用者と共にセラピーロードを歩く時の注意点やコースの説明などを、熱心に分かり易くお話しされていました。山陰地方で初めて森林セラピー基地として認定された飯南町。今後は本町固有の森林資源を活かした、森林セラピーガイドや森林セラピストの育成が進み、「森林セラピーといえば飯南町」の名を轟かせたいものです。

編集後記

大雪で被害を受けられた皆さんに、お見舞い申し上げます。

三月に入るとそれまでの気候が嘘のように一気に春めき、十日にはふきのとうを頂きました。天気に誘われ例年より早めに農作業が進んでいる方も多いのではないのでしょうか。今年の作柄が良いことを願うばかりです。

さて、このたびの定例議会でも初めて一般質問にたちました。緊張で声をうわずらせながらも、議員として貴重な一歩を踏み出すことができました。これからも品格と活気をあわせもつ議会であるべく、その一員としてしっかり研さんを重ね、住民の皆さんの声を聞き、信頼され期待される議会活動に努めて参ります。

これからも温かいご声援とご指導を、よろしく願っています。

議会広報編集委員会 副委員長 安部 丘

明日を拓く



今月の表紙写真

